

## 令和7年度第3回半田市男女共同参画審議会 議事録

開催日時	令和8年2月17日(火) 10時~12時
開催場所	半田市役所 会議室404
次 第	1. あいさつ 2. 報告 (1) 令和7年度「みんなが輝くチャレンジプラン」評価報告書について (2) 令和7年度実施「半田市男女共同参画意識に関する調査(アンケート調査)」結果について 3. 議題 (1) みんなが輝くチャレンジプラン(第3次男女共同参画推進計画)中間見直し素案について 4. その他 (1) 令和8年度審議会スケジュールについて
出席者	会 長：末盛 慶 委 員：板倉恵美、鈴木靖隆、岡戸秀一、斎藤由華、杉川智美、岩本佳大、 榊原衣麻 事務局：市民協働課長 渡辺富之、森幸、小坂優勢
議事録	
2. 報告	
(1) 令和7年度「みんなが輝くチャレンジプラン」評価報告書について事務局より説明。	
委員	6ページ基本施策1、最終行の文章にて「必要」が誤記。
会長	委員の拍手によって承認。
(2) 令和7年度実施「半田市男女共同参画意識に関する調査(アンケート調査)」結果について事務局より説明。	
会長	調査実施はいつか。
事務局	令和7年9月。
会長	国・県との比較もある、市民が答えているリアルな結果になっている。外国籍の方が増え続けている。今回DVの数字に動きがある。これまで表に出ていなかったものが表面化しているとの見方もできる。
委員	有効回収結果が672件、市民33.8%という回収率はどのような判断か。
事務局	前回も同様に2,000名に送付し、750名回答があったことと比較すると若干少ない。しかし要因の一つに今回は国政調査の時期と重なったことで、同時期に複数のアンケートが行われたことへの影響も考えられる。
会長	調査量や時期にもよるが、市町村では4割程度を望みたい。
委員	年代別のアンケート集計はあるか。
事務局	掲載はしていないが、アンケート毎に性別、年代別に集計したものもある。
委員	年代毎の回答率の差もあるため、どの年代の意見か気になる。若年層はアンケートに消極的なイメージもあり、半田市のみでも幅広い意見を知りたい。
事務局	年代、性別毎の研修や傾向調査にも有効的に活用したい。

	675名中10歳代52名、20歳代93名、30歳代111名、40歳代96名、50歳代102名、60歳代111名、70歳代以上110名だった。 10歳代は18歳以上のため、回答数が少ないことは理解できるが、20歳代以上が約100名程度回答をしているという結果にはなった。
委員	男女共同参画のメインターゲットは20歳代後半から40歳代。その年代の方の意見が特に大事。
事務局	回答の男女比は全体的に男性4割、女性5～6割が女性。
委員	18ページのデータに回答比率が載っている。
委員	回答数が増えると面白い結果が出るのではないか。アンケートを回答することで何がかわるかを明確にすることで関心も上がるのではないか。
委員	アンケート調査結果を市報に掲載してはどうか。
事務局	直接的に表を載せるわけではなくても、HPへの誘導等による情報の公開は可能性として考えられる。 前回との変更点として、前は紙ベースだったが、今回はQRコードを利用したオンライン回答を導入した。回答方法としては半々程度ではあった。
会長	結果を公開することで自分の回答が形になっている実感があれば回答への意欲が沸く。回収率は行政が努力できる部分もあるため、地道に高めていければ良い。
委員	自由回答欄の意見が掲載されていると、結果も気になる。
委員	市報にも編集後記にアンケートがあるが、自分の意見が届いたと感じることで関心が深まる。
委員長	一宮のモヤモヤカレンダーを参考にしても面白い。性別を理由とした日々のモヤモヤをカレンダーにするという発想。行政を身近に感じられて良い。 男女共同参画に限らず、幅広い意見を募集すると面白い。
事務局	意見公募の結果が子どもから寄せられた意見が多いことに驚いた。性別を理由にもやっとした経験を持つ子どもが多い。
委員	半田市も男女共同参画かるたが他地域でも好評だった。
委員長	カレンダーでは年中啓発になる。 アンケートの結果では、13ページDV被害相談件数、14ページ家庭生活で男性が優遇されている割合が激増していることが気になる。コロナ禍の影響で家庭内の風通しが悪くなってしまったのか。DVの結果は市報に掲載し、牽制的な意味合いも含めて抑止効果を狙った広報をしても良い。抜粋したグラフでの掲載でも、当事者の気付きにも繋がる可能性もある。相談件数が増えたことは行政の役割を果たすという意味では良い面でもある。
委員	おかしいと思ったことをアンケートに書けるようになったこと。当たり前ではない、と気付いたこと。
委員	女性の社会進出も要因にあると思う。
委員長	女性の労働力人口は年々増加している。
委員	共働き世帯が増加し、家庭内でも平等という考えが浸透してきている。残業が多い事で男性の家事参加が難しくなる。
委員	アンケート結果の回答数は半田市が675件に対し、国2,673件、県1,236件は明らかにデータ数が少ない。市町村毎にアンケートを実施し、統計をまとめて県や国で取る、ということはいかないか。 単純に比較をして良いものなのか疑問。

委員	人口比から言えば、国は少なすぎる。
事務局	国は 5,000 名に対してアンケート調査を行い、回答率は 2,000 名程度の回答だった、とある。半数程度の回答率。
委員	5,000 名は国の人口から見ると少ない。比較し、半田市では 2,000 名という人数は評価できる。国や県のアンケート母数が人口規模にすると少ない。
事務局	国の 5,000 名に対し、有効回答率は 53.5%、県は 3,000 名に対し、41%の回答率。 回答率ではなく、アンケート母数の問題。
委員	アンケートでは、個人がどのように男女の関係を考えているかを表している。DV の感じ方も人それぞれであり、男女の参画の違いも一概には言えない。学校や職場では意識が変わってきているが、家庭内での男女差はまだ大きい。
委員	アンケートに回答した際の精神状態も影響する。
委員	年齢が上がるにつれ男性の方が職場での立場が上がっていく傾向があり、価値観の変化や家庭内での役割に影響を与えている面もある。
委員	回答率 33%は少ない。アンケート調査が届いた際に回答をしたいと思えるような周知をしていけると良い。結果と共に有効回答率が公表されるが、その後回答した人が確認できる広報や、どのように結果が評価をされているか、影響を与える事ができる工夫が必要。
委員長	次回調査時に意見がどのように反映されているか、開催したイベントの情報や出された意見を親しみやすい様式で公表するのはどうか。
<p>3. 議題  (1) みんなが輝くチャレンジプラン（第3次男女共同参画推進計画）中間見直し素案について  事務局より説明。</p>	
委員	半角・全角の確認。
委員	担当課変更は名称が変更したのか。
事務局	機構改革の関係で令和8年度より変更予定。 資料3、目標値について、今年市は市の総合計画も中間見直しがあり、目標値の改めがあった。目標値の考え方は、10年間で示した計画を尊重し、物理的にできなくなる原因がない限り、基本的に下方修正はしないというやり方を踏襲している。資料4の内容についても関係課と調整する所はあるが、基本的には今後5年を見越し、使われていない言葉や目標値、内容を中心に総合計画との関連性も確認しつつ調整をしていきたい。 新たな内容を加えるというよりは、基本的には今ある内容が向こう5年と合っているか、という見直し。
委員	女性にも就労を促進したいという意図は理解できるが、家庭との両立やその他自治活動への参加等もあり難しいこともある。また、防災訓練の参加者も高齢者が多く、参加を促したいターゲット層とは異なっていると感じる。 市長への手紙の制度はどうか。
事務局	主にメールでの投稿となる。
委員	外国籍市民の処遇に関して、国や県、市がどのように考えているのか分からない。治安の面での心配もある。 男女平等を考える際は女性ではなく、男性の意識改革がより必要なのではないか。また、民間での男女の給与差はまだある。社会的平等には遠い。

委員	資料はどこかに掲載されているか。
事務局	見直しをしていく段階の資料のため、公開はされない。市民には見直し後にパブリックコメントとしては公開する。
委員	資料3の3-2「地域活動の場」において、男女の対等・平等と感じている市民の割合の値が下がっていることが気になる。目標を見直すだけではなく、何か取組をしていかなければいけないという発見になる。地域活動の場への認識不足を感じた。地域活動とは何かを明らかにすること、周知方法により数値は変わってくるのではないかと。 資料5では性的少数者への理解の促進では、相談窓口やパートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度の取組をしたことによる変更点であり、非常に嬉しく思う。
委員	目標値の設定について、1-1「男は外で働き、女性は家庭を守るべき」とい考え方に反対・どちらかといえば反対の市民の割合では上昇率を加味して上げているが、2-1 ファミリーシップ・フレンドリー登録企業、あいち女性輝きカンパニー登録企業、えるぼし認定企業では上昇を加味した割合は53社になっていることに対し、計画では50社に留まっているのはなぜか。
事務局	県の目標値が50となっていることに合わせている。
委員	アンケートの内容詳細が分からないが、地域活動における男女平等の割合について、問い次第で回答は変わるのではないかと。具体的な活動例を提示し、その流れで聞いていなければ直感的に回答をしてしまう可能性がある。
事務局	具体的な地域活動がイメージできないのではないかと、という意味か。
委員	半田市はまつりという特色がある。時期によって男性が家を空けることやまつり自体にも男性の参加しか認められていない等、家庭内の平等への考え方も特殊な地域にはなると思うが、今回のアンケートの要点ではそれ以外の地域活動という考えになっていないのではないかと。
委員	男性は外で働き、女性は家庭を守るべきという考えについて、主観的な意見にはなるが、反対意見を持っている方が悪いのか、と捉えられてしまう。役割に関する考え方については人それぞれであり、目標とすることで、反対意見を持っている方が孤独を感じてしまうのは違うと感じた。意見の中で感じるのだが、根本的に家庭内でのコミュニケーションの問題ではないかと。数値を設定し、目標を持つことは大切だが、コミュニケーションをしっかり取ることに重点を置くことで結果が変わってくるのではないかと。同じ内容の役割でも、コミュニケーション能力によって満足度や感じ方が変わる。家庭内でのコミュニケーションに関するアンケート項目があっても良いのではないかと。
委員	以前からファミリー・フレンドリー登録企業以外に、あいち女性輝きカンパニー企業やえるぼし認定企業もあったか。 登録のハードルは低い様に感じるが、県の目標が年間2社では少ないのではないかと。自然に増えていくのを待っているのか。市がどのようにアプローチしているのか何か取組が分かると良い。
事務局	リーフレットやHPには載っている。
委員	男女共同参画の中で何を以って地域活動かという視点で見た場合、イメージが難しい。アンケートの中にキーワードがあることで結びつけやすくなる。
事務局	アンケートの中で地域活動に注釈として具体的な事柄を補足説明はしている。
委員	地域も高齢化が進んでいる。地域活動の在り方も変化が必要ではないかと。また

	外国籍の方の問題もある。活動の内容、時間帯を区長会で取り上げ、市としての大枠を標準化してもらえると良い。外部委託も視野に入れた方が良い。
委員	教育現場での男女平等が浸透しているという結果に嬉しく思うが国や県と比較するとまだまだだと感じた。資料2、29ページ「性的少数者の存在の認知」が13%。中学生4,000名弱に対し少なく見積もっても1割の当事者がいると考えた場合、情報として挙がってきている件数が少ない。隠れている子が居るのではないかと、という懸念が残る。困っていないのか、言い出せないのか。自分から言い出せない子のストレスを相談ができる状況のためには早期教育が必要。幼稚園や保育園から段階的教育の拡充を進めていきたい。機構改革後も学校教育課として保育園、幼稚園と引き続き連携を取っていきたい。
委員	包括的性教育、早期性教育も増加している。市内でも専門の講師を招き、教育を行っているとの新聞記事もあった。
委員	教育に関係している団体による研修会も開催した。
委員	意識醸成には必要なこと。 就業している女性としていない女性、どちらも卑下させる立場ではない。特に就労していない女性も主張を前面に出しても良い。男性にはあまり理解されていない場合も多いが、女性就労のための環境については行政の支援不足もある。子育て等による就労できない現状への理解や、安心して家を任せられている環境の背景を尊重されるべき。家事労働も就労同等とみなす風土づくり。
会長	他市町では性的少数者をLGBTQ+と言い換えているところも多い。言い換えを検討しても良い。 外国籍市民関連の情報提供があるが、共生のための具体的取組、イベント等による交流の機会を作ってくことで共生に近づけるのではないかと。 次期プランの際には「男性が外では働くべき」という価値ではなく「社会全体で優遇されている」という評価として将来的に差し替えていくのはどうか。
委員	男女平等との建前だが、アンケートの中身では現状は平等ではない、との結果が目立つ。アンケートの取り方の問題か。建前と本音のずれを感じる。市民へ男女平等の実例を出し、分かりやすく公に公表してもらえると良い。
	以上